

## 平成 23 年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」結果のまとめ

( )内は前年度の正答率

1 実施目的	生徒の学力状況及び学習に対する意識等を調査分析し、今後の教育行政及び各学校における学習指導の改善に役立てる。
2 実施調査	1 学年：質問紙調査 2 学年：国語，数学，英語，質問紙調査
3 実施対象	公立(県立，仙台市立，石巻市立)高校 1 年生 約 15,700 人 公立(県立・仙台市立，石巻市立)高校 2 年生 約 15,800 人
4 実施期間	平成 23 年 7 月 7 日(木) から 7 月 15 日(金)

5 2 学年教科別学力状況調査結果の主な特徴		
教科	分析結果	共通問題 正答率
国語	<b>基本的事項は身に付いているが、全体像を把握するなどの活用力が不足</b> ・既習内容や日常生活レベルの語彙などはある程度身に付いている。 ・個々の理解を相互に関連付けながら展開をたどり、全体像を的確に捉える力を問う問題の正答率は低い。	37.8 (45.7)
数学	<b>基礎・基本の定着度は上昇、複数の基礎事項を組み合わせる思考力が不足</b> ・公式や定理をそのまま用いて答えを求めることは身に付いている。 ・図やグラフ，文章で示された情報を読み取り，式(公式や定理)を用いて思考したり考察したりするような問題は正答率が低い。	45.3 (38.1)
英語	<b>基本的な力は身に付いているが、長文に対する情報処理能力が弱い。</b> ・基礎的・基本的な語彙や文法，簡単な英文のリスニングについては正答率が高い。 ・長めの英文を読んだり聞いたりする発展的・応用的な分野の正答率が低い。	39.2 (41.8)

6 1 学年・2 学年意識調査結果の主な特徴		7 学校をあげての活動や取組 (学校数：89 校課程)
学年	分析結果(具体的な数値は 8 ページ以降)	
1 学年	大学進学希望者が減少，就職希望者が増加 受けた授業は興味関心が持てる授業，分かる授業 「授業が概ね理解できる」は初めて 50% を超えた。 ほぼ毎日学習する生徒は 7 年連続の増加 学校での宿題・課題は増加，小テストの実施は減少 家庭学習での悩みは「集中できない」と「部活動との両立」。集中できない原因は，「電話やメール」，「ゲームやインターネット」，「テレビやビデオ」	「朝学習」，「朝読書」や「放課後の学習会」等の学校での学習時間の確保 (77 校) 「学習の記録簿」の活用，「宿題や小テスト」等の家庭学習の習慣付けを徹底する取組(63 校) 県の授業力向上を支援する事業等の活用 (61 校) 総合的な学習の時間の効果的な活用 (54 校) 義務教育段階の定着を図る学校設定科目の設定も含めた教育課程の編成の工夫 (36 校) 「分かる授業」，「考える授業」を目標とした組織的な授業改善への取組 (17 校) 進路希望選択や学習における悩みに対する面談指導の充実 (10 校)
2 学年	大学進学希望者が減少，就職希望者が増加 「授業が概ね理解できる」は前年より 1.7 ポイント増加 家庭学習時間は 1 年次より減少，前年よりは増加傾向 ほぼ毎日学習する生徒は前年より 1.9 ポイント増加 学校での宿題・課題，小テストは前年より顕著な増加 家庭学習での悩みは「集中できない」。原因は，「テレビやビデオ」，「ゲームやインターネット」 正答率の高い生徒は，毎日一定の学習時間を確保。宿題や小テストで学習習慣を確立している。	

### 【考察】

2 年生の学力状況については，国語・英語における基礎的・基本的な力はある程度身に付いているが，それらを活用・応用する力が不足している。数学については，前年度定着度の低かった「三角比」の分野の定着度の上昇が見られたが，基礎・基本事項を組み合わせる思考する力や計算力に課題がある。

前年度と比較して，1・2 年生とも，「家庭学習時間」，「授業を理解している」の割合が増加している。しかし，1 年次から 2 年次にかけて「学習していない」割合が増加する傾向は続いている。

多くの学校で学力・学習状況調査結果を活用し，組織的に授業改善等に取り組んでいる。その結果，成果を上げている学校も多く，県の事業である授業力向上支援事業により，組織的に授業改善や家庭学習の習慣付けに取り組む学校が増加している。

# 平成23年度公立高等学校「みやぎ学力状況調査」 結果の概要

## I 調査の概要等

### 第1学年

- (1) 第1学年における生徒の学習状況及び進路意識等を調査分析し、各学校における学習指導及び進路指導の改善並びに本県の教育行政に役立てる。
- (2) 公立（県立・市立）高等学校の79校の1年生，約15,700人を対象に，平成23年7月7日（木）から7月15日（金）までの間，各学校で実施（仙台市立は今年度より実施）

#### 質問紙調査

生徒の学習に対する意識等についてのアンケート調査を実施

〔調査実施人数〕

意識調査回収人数 15,066人(回収率 約96%)

### 第2学年

- (1) 学習指導要領に示された指導内容の定着状況並びに第2学年における生徒の学力状況及び学習に対する意識等を調査分析し，各学校における学習指導の改善並びに本県の教育行政に役立てる。
- (2) 公立（県立・市立）高等学校の79校の2年生，約15,800人を対象に，平成23年7月7日（木）から7月15日（金）までの間，各学校で実施（仙台市立は今年度より実施）

#### ①学力状況調査

〔調査実施教科〕

- ・国語，数学，英語の3教科の学力状況調査
- ・国語，数学，英語の作問に当たっては，高校1年次に学習した内容の基礎・基本と思考力・応用力を問う問題で構成し，平均正答率を50%と設定して作成
- ・国語，数学，英語はそれぞれ共通問題に加え学校選択問題を設定  
※学校選択型A問題（A問題）は基礎的・基本的な内容の設問  
※学校選択型B問題（B問題）は思考力・表現力・応用力をみる設問

〔調査実施人数〕

国語 14,975人（A問題選択60校7,813人， B問題選択29校7,162人）

数学 14,968人（A問題選択63校8,681人， B問題選択26校6,287人）

英語 14,965人（A問題選択64校8,793人， B問題選択25校6,172人）

※学校数は全日制本校74校，定時制11校，分校3校，岩ヶ崎鶯沢校舎を1校の計89として集計した。

#### ②質問紙調査

生徒の学習に対する意識等についてのアンケート調査を実施

〔調査実施人数〕

意識調査回収人数 14,989人(回収率 約95%)

## Ⅱ 調査結果の概要と分析

### 1 2学年学力状況調査の教科別結果

#### 国語

共通問題正答率は、37.8%（前年度45.7%）

○ 基本的知識は身に付いているが、個々の知識を活用して読み解く力が不足

言語事項に関する設問のうち、既習内容や日常生活レベルの語彙を問うものについては概ね良好であるが、使用頻度の低い言葉についての問題の正答率は低い。また、個々の理解を相互に関連付けながら展開をたどり、全体像を的確に捉える力が不足している。古文・漢文については、ともに基礎的・基本的な知識は身に付いている一方で、それらの知識を活用して、細部から全体へと理解をつないでいく力はまだ不足している。

#### 数学

共通問題正答率は、45.3%（前年度38.1%）

○ 三角比の基礎事項の定着度は上昇したが、全体的に複数の基礎事項を組み合わせて思考する力が不足

基礎・基本の定着については、「方程式と不等式（数と式、二次方程式、二次不等式）」や前年度定着度の低かった「図形と計量」の分野では一定の定着が窺えるものの、「二次関数」については依然として不十分である。また、絶対値記号の意味理解に関する問題や基礎・基本を複数組み合わせる問題、計算力が求められる問題などについては正答率が低い。そのため、適切な公式や定理を選択したり複数の手順を経て解答したりするような問題を解く力は十分には身に付いていない。

#### 英語

共通問題正答率は、39.2%（前年度41.8%）

○ 基礎的な力は身に付いているが、長文に対する処理能力が弱い

基礎的・基本的な語彙や文法の知識、リスニングにおける基本的な内容の理解力については、概ねよく身に付いている。多量の英語の情報処理能力や文脈を読み取るような発展的・応用的な分野の理解力はまだ不十分である。多くの英語に触れることで身に付く実践的な英語力が不足しているものと思われる。

#### 〈各教科の受験者数、共通問題の正答率等概要〉

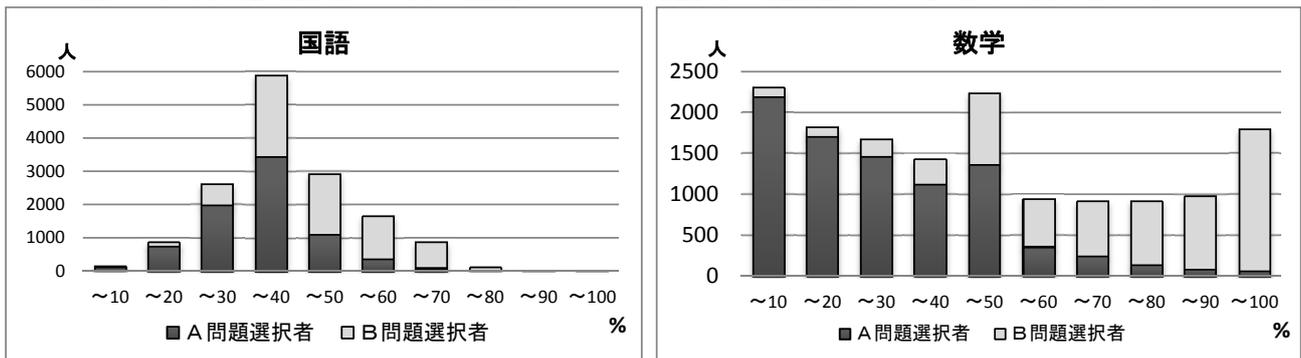
※学校数は全日制本校74校、定時制11校、分校3校、岩ヶ崎鶯沢校舎を1校の計89として集計した。

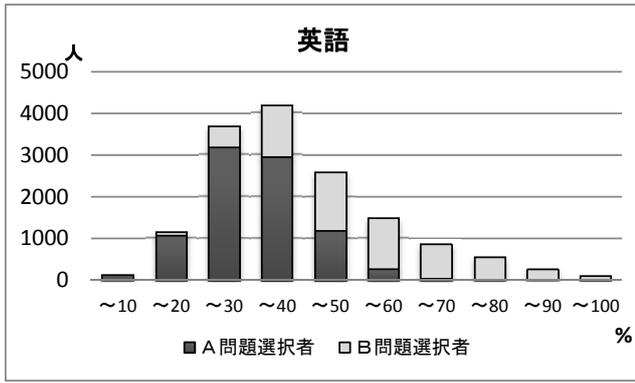
教科	国語		数学		英語	
	国語A	国語B	数学A	数学B	英語A	英語B
選択						
内容	基礎的・基本的な内容の設問	思考力・表現力・応用力をみる設問	基礎的・基本的な内容の設問	思考力・表現力・応用力をみる設問	基礎的・基本的な内容の設問	思考力・表現力・応用力をみる設問
学校数	60	29	63	26	64	25
調査人数	7,813	7,162	8,681	6,287	8,793	6,172
共通問題部分の正答率	32.5 (38.5)	43.6 (53.2)	27.1 (23.7)	69.3 (62.7)	31.3 (32.5)	50.6 (53.6)
A・B選択者別の全体正答率	32.5 (38.5)	41.2 (50.4)	22.0 (18.8)	48.6 (44.6)	30.6 (31.4)	48.4 (50.0)

※（ ）内は前年度の正答率

図1-1 共通問題の正答率別度数分布

各教科における共通問題部分の正答率の度数分布についてA問題及びB問題を選択した生徒に分けて積算集計したもの

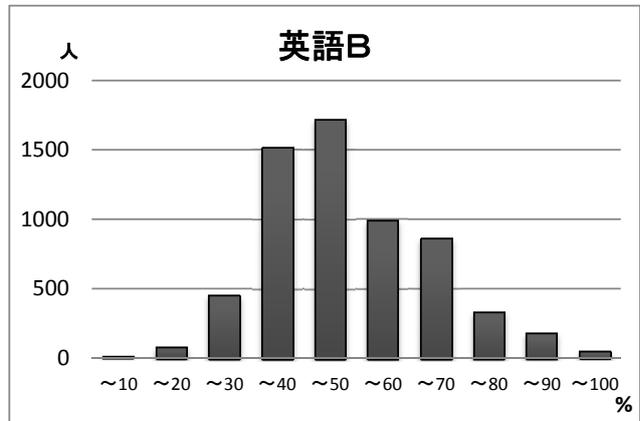
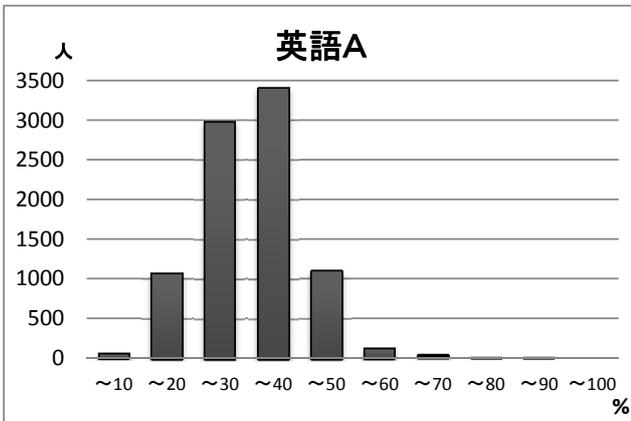
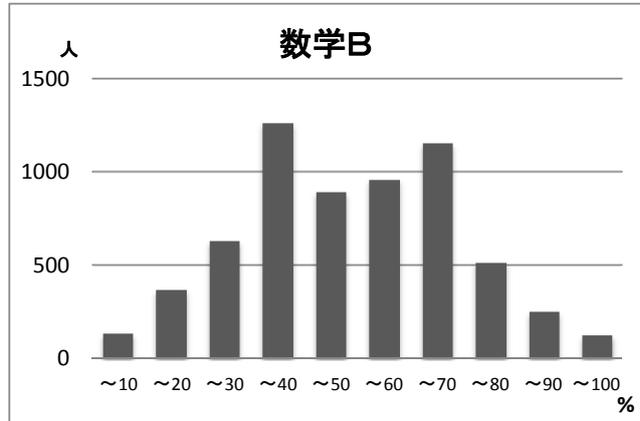
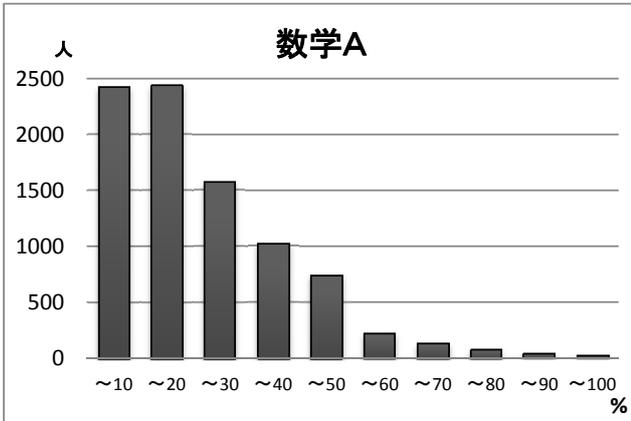
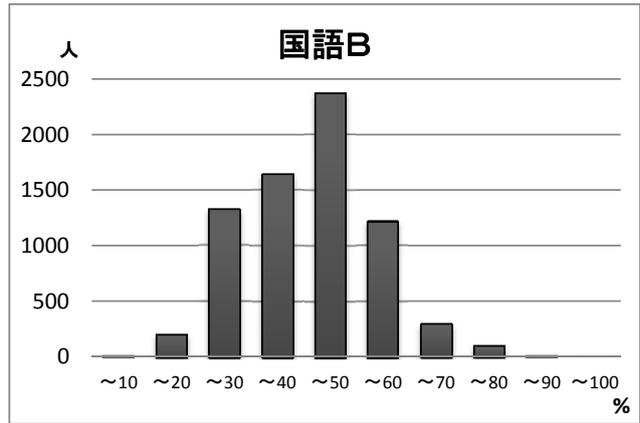
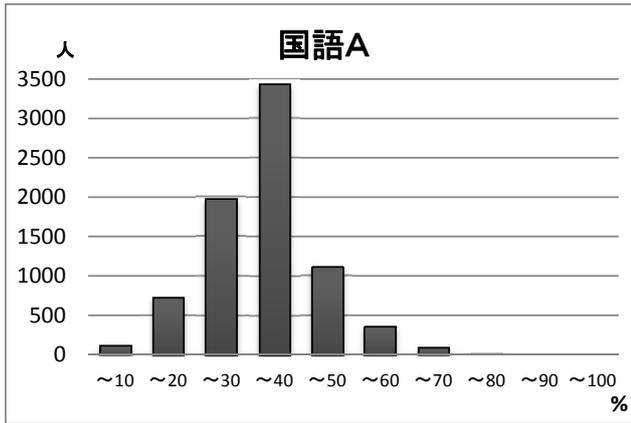




〈分析〉

- 数学は正答率の高い生徒と低い生徒に分散している。これは、1年次に学習した基礎・基本の定着度に分野別ごとのばらつきがあることが原因と考えられる。
- 英語の分布も分散が大きい傾向があり、正答率に広がりが見られる。これは、一定の時間で情報を処理する練習の不足や、語数の多い英文に慣れていないことが原因と考えられる。
- 3教科ともB問題選択者は正答率が高く、基礎的・基本的な能力がある程度身に付いていると考えられる。

図1-2 A問題, B問題別の正答率度数分布  
各教科における共通問題部分を含めた全問題正答率の度数分布



## 2 2 学年学力状況調査の結果分析と改善の方向

### 国語

#### 分析と課題

( …相当数の生徒ができています。 …課題がある。)

日常で触れる機会が多い語に関する問題ほど正答率が高い。敬語や慣用句についての基本的な知識は身に付いている。

難解な漢字の書き取りや読み方になると正答率が大きく落ちてしまう。

使用頻度の低い品詞についての知識や適切な日本語の使い方については十分でない。

⇒ **課題 1：社会人として必要とされる言語能力の基礎となる知識・理解が十分でなく、それらを習得する機会の確保が急務である。**

論理的な文章では、指示語や接続詞に注意して内容の理解に努めている。

論理的な文章では、抽象的な叙述から具体的なイメージをつかむ思考力に乏しい。

文学的な文章では、登場人物の言動からその境遇を適切に把握する力、場面に応じた心情を理解する力が不足している。

⇒ **課題 2：部分的な理解をつないで展開をたどり、全体的な理解へと結び付けられる読解力を身に付けさせる指導の一層の工夫が必要である。**

基本的な語句や文法・句法の知識は身に付いてきている。

指示語の内容や省略部分などを文脈に即して把握することができない。

文章から必要な情報を取り出し的確に理解し、最後まで丹念に読み通すことができない。

⇒ **課題 3：古典に親しませ、部分的な理解を丹念に積み上げていき、作品を自分の力で読み解いていくおもしろさに気付かせるような指導の工夫が求められる。**

#### 改善の方向



基礎的・基本的な言語知識を定着させるために、普段の授業で言語事項を扱う機会をできるだけ取り上げる。言語事項に関する知識を身につけることで、思考力や表現力の向上にもつながることを意識させるよう工夫する。

- ・漢字については、正確な知識の習得を目指させるとともに、日頃から様々な文章に触れさせ、それらをできるだけ活用する場面を工夫して確保する。
- ・慣用句、四字熟語については、実際の用例を示したり想起させたりして、具体的なイメージの備わった知識として定着させる。
- ・敬語については、その成り立ちと社会生活における意義を理解させた上で、状況に応じて適切に用いる能力を育てる。

論理的な文章では、筆者の提示している問題意識を的確に捉えた上で、根拠として挙げられた事実や具体例を整理し、整然とした論理の筋道をたどる能力を育成できるよう工夫する。また、文学的な文章では、細やかな心理描写に適切に注目させ、登場人物の特徴やその人間関係を的確に把握し、読解をより深いものにしていくための指導法を工夫する。

- ・内容を把握し自分なりに再構成しようとする力、難解な表現や複雑な構成にも忍耐強く向き合い読み解こうとする態度を育てるための指導の工夫を図る。
- ・問題を解く際は、主張の土台となる根拠を見極めた上で、客観的視点から俯瞰的に文章を把握し、主張の要となる部分をまとめる表現力を身に付けることが必要不可欠である。
- ・文学的な文章では、登場人物やその関係性をより深く読み味わうために、行動の描写や会話部分に着目させる。その際、文章上の語彙をそのまま用いさせるだけでなく、自分の言葉に置き換えさせることで、語彙力を増強させるとともに深い読解力も育成する。

古典作品に触れる機会を増やし、古典に親しませる学習活動や教材を工夫する。また、基礎的・基本的知識が内容理解につながることに気付かせるために、教材や指導の工夫を図る。

- ・古典常識や基本的な語句、文法・句法の知識の充実を図る。そのために、現代にも生きている事項や語句に意識的に触れさせ、古典の世界が身近に感じられるよう工夫する。また、暗記のみにならないよう、その知識を活用して読解・鑑賞させたり、現代語訳や具体的な身近な場面との対応に気付かせたりして、読解のおもしろさを感じさせる。
- ・古典世界が現代にも通じるものであることを示すための工夫を図る。現代語の中に息づく語句や古典事項に触れさせる活動を効果的な足がかりとして設定する。
- ・適宜現代語訳の利用を図ったり、身近な場面に置き換えさせたりして、古典において表現されている内容を具体的にイメージさせ、内容のおもしろさを感じさせる。
- ・音読や暗誦によって作品のリズムを感じながら、文章の雰囲気や話の展開を味わわせる。

## 数学

### 分析と課題

( …相当数の生徒ができています。 …課題がある。)

「方程式と不等式(数と式, 二次方程式, 二次不等式など)」、「図形と計量」の基礎・基本については, 当該設問の正答率が高いことから, 一定の定着がみられる。

複数の基本事項を組み合わせて処理する問題や, 定理の活用法を思考・選択することが必要な問題, 絶対値や二次関数を扱った問題は, 正答率が低い(あるいは低下している)。

⇒ **課題 1: 2年次の授業や家庭学習において, 1年次に学習した基礎・基本について, 定着の不十分な事項に特に注意しながら, 継続的に復習させる指導が不足している。**

問題文から条件を読み取って考察したり, 操作手順を逆に辿って図や式を考察するなどの新たな発想が求められたりする問題でも, 正答率が高い。

複数の見方を統合して考察したり, 複数の基本的な知識・技能を順に用いたりする問題などについては, 正答率が低い。

粘り強く思考する力が不足していること, 得られた解の適否を吟味する習慣の定着が不十分であることが窺える。

⇒ **課題 2: 公式や定理がなぜ成り立つのかを理解したり, 様々な数学的活動を通して論理的に思考したりする機会や時間が十分でないため, 公式や定理を活用する力や粘り強く考える力が身に付いていない。**

文字を用いて抽象化したり一般化したりすること, グラフから情報を読み取ったりグラフを活用して変化の様子を考察することなどについて, 理解や習熟に課題があることが窺える。

数量の比や大小関係を文字式や不等号を用いて正しく表現する力が十分定着していないと考えられる。

⇒ **課題 3: 文章や式, グラフなどから必要な情報を読み取り, それを活用する力や, 数学の用語や記号, グラフなどを用いて表現し, 思考する力が不足している。**

### 改善の方向

数学を学ぶ意欲を向上させ, 基礎的・基本的な知識や技能の定着度を高めるために, 数学を学習する楽しさや意義, 数学的な見方や考え方のよさを実感させる授業を工夫する

- ・身近な事象を数学化した問題を扱ったり, 数学が果たす文化的・社会的な役割を話題にしたりして, 数学への興味・関心をもたせ, 学習意欲を高めるよう指導する。
- ・発問や展開を吟味し, 学習の必要性を気付かせ, 数学のよさを認識させるように工夫する。

論理的に思考する力を育成するために, 意味理解をより確かにしたり, 思考力を互いに高め合ったりする指導を工夫する。

- ・公式や定理については, 「なぜなのか。」という視点を重視し, 具体例を多く扱うことによって, 有用感を高めたり導出過程を他の場面でも活用できる力を育てるよう工夫する。
- ・言語活動, 数学的活動を取り入れ, 論理的に思考・表現させる場面を計画的に設定する。

論理的に表現する力を育成するために, 用語・記号について「説明させる」ことを意識し, 数学的な表現に慣れさせる工夫をする。

- ・数学用語や数学記号を用いた文章, 数式の表す意味を説明させたり, 方程式や不等式を「言葉の式」に読み替えさせたりする場面を意図的に取り入れる。
- ・発表や検討(練り合い)など様々な形式を用い, 数量関係の理解を説明させたり記述させたりすること, その表現を吟味して理解の誤りを修正したりより深めたりさせることなどを, 授業展開に効果的に位置付ける。

文字式や数学の用語・記号を用いて記述された文章などの理解・処理には, 具体例を確認したり状況を視覚化して理解したりすることができる示唆や支援を重視する。

- ・文字を具体数に置き換えて確認することで, 式の表す意味の理解を深めたり, 得られた結論の適否を吟味したりすることの有効性や大切さを実感させるよう工夫する。
- ・表や図, グラフなどを用いて条件や状況を把握したり考察したりする習慣の定着を図る。
- ・変化や動きを実感をもって考察させるため, ICTの活用なども積極的に検討する。

## 英語

### 分析と課題

( ……相当数の生徒ができています。 ……課題がある。 )

簡潔で基本的な表現を聞き取りその内容を理解する力については概ねよく身に付いている。  
高校1年生に学習する文法・語法を使った設問にもかかわらず、論理的思考が要求される問題には対応できなくなる。

⇒ **課題1：日頃の学習で英文を聞く機会が足りず、まとまった量の英語を理解する力が不足している。**

中学レベルの基本的な語彙、文法・語法については、一定の定着が図られている。  
高校で学習する語彙・熟語・文法を正しく使用できるレベルまで到達していない。

⇒ **課題2：高校段階で学習する語彙・熟語・文法の知識が正確に身に付いていない。**

中学校英語の基本的な定型表現はある程度身に付いている。  
高校で初めて学習する文法・構文はある程度活用できつつあるが、英語特有な表現を活用できるレベルまでは到達できていない。

⇒ **課題3：豊富な語彙を用いる高校段階の学習においては、場面に応じた語彙を適宜選択して英文を構成する力の育成が必要である。**

未知の語句についてその意味を類推したり、文の大まかな内容を把握することはできる。  
高校段階の語彙力や文法事項の習得が不十分で、短時間で正確に内容を読み取り、必要な情報を整理することができない。

⇒ **課題4：英文の内容を正確に理解し、必要な情報を読みとり、書き手の意向を理解するために必要な読解力が不足している。**

### 改善の方向



**聞き取りの力を向上させるため、理解の土台となる語彙や基礎的な文法・語法の定着を図るとともに、英語を聞かせる機会を多く設ける。**

- ・一部生徒については、つまずきのも見られることから、必要に応じて「中学校の学習内容」も含めて、基礎的な語彙や文法・語法の定着を図る。
- ・英語を聞く機会を多く設ける。
- ・様々な方法による音読指導を通じ、リスニング力の土台となる表現の定着を図る。
- ・聞き取るべき要点を絞り込んだリスニング活動を充実させる。

**正確な語彙力、文法・語法力を養うとともに、読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく育成・活用し、その定着を図る。**

- ・練習問題や小テストなどのトレーニングを何度も繰り返すことにより、高校レベルの語彙・文法の知識の定着を図る。
- ・生徒の実態を考慮しながら、授業において英語使用の機会を増やし、学習内容が運用レベルに到達するよう目指す。
- ・あらゆる授業において、既習の単語・文法事項を仲立ちとして、コミュニケーションを通じて、英語運用能力の向上を目指す。

**語彙力を高めながら表現する力を育成するために、英語で読む・書く・聞く・話すためのタスクの活用を図る。**

- ・新出の文法や構文は活用を通じて理解させ、整序作文や自由英作文にも対応できる力を身に付けさせる。
- ・コミュニケーション活動において、身に付けさせたい文法・構文を何度も使うようなタスクを工夫する。
- ・単語や熟語は文または句の単位で練習させ、語法の理解と併せ、英語運用能力が向上することを図る。
- ・宿題や小テストで単語・熟語だけでなく、新出の文法や構文を使った簡単な英文も書かせるなどにより、表現する能力のより確実な定着を図る。

**読解力及び情報処理能力を養成するために、語彙と基本的な文法事項の定着を強化するとともに、言語材料の理解だけにとどめず、内容の把握を重視して指導する。さらに文章や段落の構成、文脈の展開などを踏まえて読みとるように指導することが大切である。**

- ・語彙指導と文法事項を定着させるため英語使用場面を増やす。
- ・Q and A や T or F 等により、日本語を介さず英語による理解を促す。
- ・英語特有の論理構造の理解を促すために、スキミングやスキニング、パラグラフ・リーディング等の様々な読解指導を充実させる。
- ・英文を読んだ後に要約させたり、意見や感想を書かせる等の活動を英語で行う。
- ・精読だけではなく短時間で必要な情報と概要を把握できるよう速読の指導を計画的に行う。
- ・スラッシュリーディングやCDを使用した eye-shadowing を行い、黙読・音読のレベルを向上させる。

### 3 1学年意識調査の結果と分析

※過去の1年生との比較

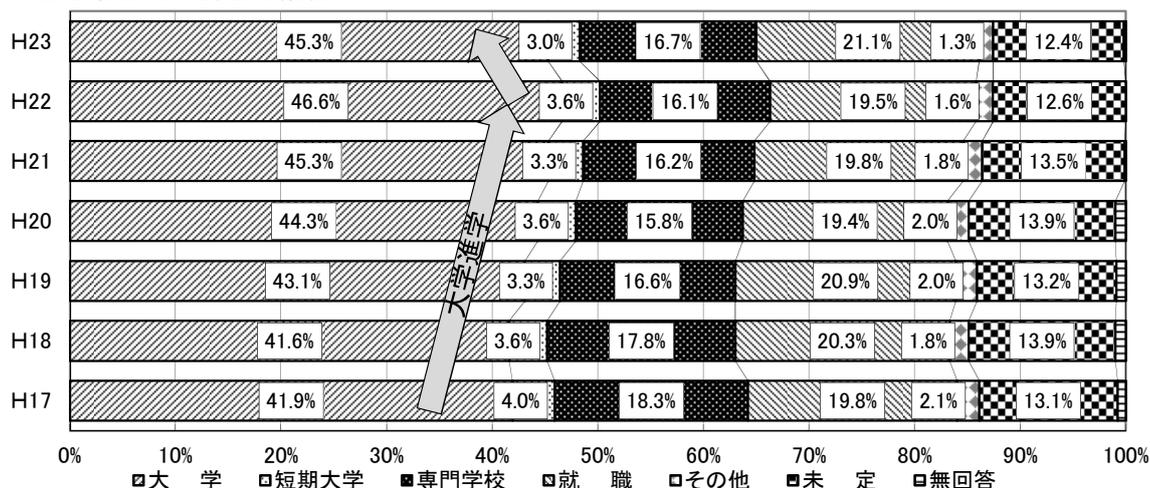
#### (1)「現在最も強く希望している進路は」

「大学進学希望者」が減少、「就職希望者」が増加

	大学	短期大学	専門学校	就職	その他	未定
H23	45.3%	3.0%	16.7%	21.1%	1.3%	12.4%
H22	46.6%	3.6%	16.1%	19.5%	1.6%	12.6%
H21	45.3%	3.3%	16.2%	19.8%	1.8%	13.5%
H20	44.3%	3.6%	15.8%	19.4%	2.0%	13.9%
H19	43.1%	3.3%	16.6%	20.9%	2.0%	13.2%
H18	41.6%	3.6%	17.8%	20.3%	1.8%	13.9%
H17	41.9%	4.0%	18.3%	19.8%	2.1%	13.1%

<分析>前年度より、「大学進学希望者」は1.3ポイント減少。「就職希望者」は1.6ポイント増加

図2 進路希望別の割合の推移



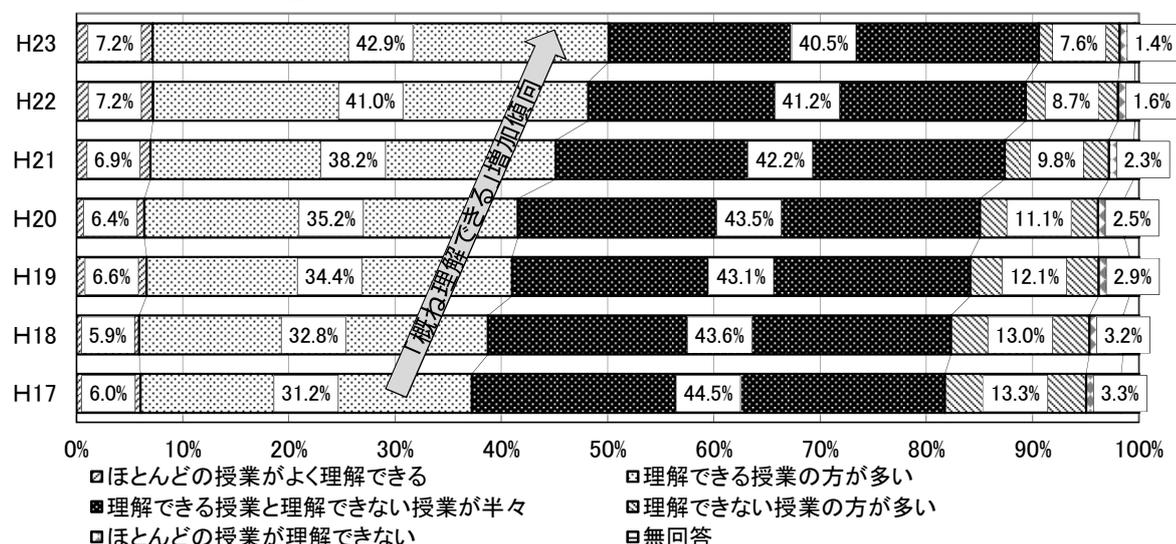
#### (2)「授業がどのくらい理解できるか」

「授業が理解できる」が年々増加

	ほとんどの授業がよく理解できる	理解できる授業の方が多い	理解できる授業と理解できない授業が半々	理解できない授業の方が多い	ほとんどの授業が理解できない
H23	7.2%	42.9%	40.5%	7.6%	1.4%
H22	7.2%	41.0%	41.2%	8.7%	1.6%
H21	6.9%	38.2%	42.2%	9.8%	2.3%
H20	6.4%	35.2%	43.5%	11.1%	2.5%
H19	6.6%	34.4%	43.1%	12.1%	2.9%
H18	5.9%	32.8%	43.6%	13.0%	3.2%
H17	6.0%	31.2%	44.5%	13.3%	3.3%

<分析>「授業が概ね理解できる」と回答した生徒が50.1%と、調査開始以来初めて50%を超えた。

図3 授業理解度の割合の推移



### (3)「受けたい授業はどんな授業か」

「興味関心もてる授業」「分かる授業」を期待

	基礎・基本から分かるまで教えてくれる授業	発展的な内容まで教えてくれる授業	興味や関心もてる授業	進路希望達成につながる授業	資格取得につながる授業
<b>H23</b>	<b>37.0%</b>	<b>6.7%</b>	<b>38.0%</b>	<b>13.2%</b>	<b>4.9%</b>
H22	37.3%	7.5%	37.3%	13.2%	4.4%
H21	35.4%	6.3%	38.9%	13.9%	5.3%
H20	35.1%	6.6%	39.0%	12.9%	5.3%
H19	36.5%	6.5%	38.2%	13.1%	4.8%
H18	35.6%	6.5%	38.5%	12.7%	5.5%
H17	35.1%	6.1%	39.8%	12.5%	5.9%

＜分析＞受けたい授業の1位は「興味関心もてる授業」であり、次に「基礎・基本から分かるまで教えてくれる授業」が続く。「発展的な内容まで教えてくれる授業」は、前年度より減少

### (4)「平日の学習時間」

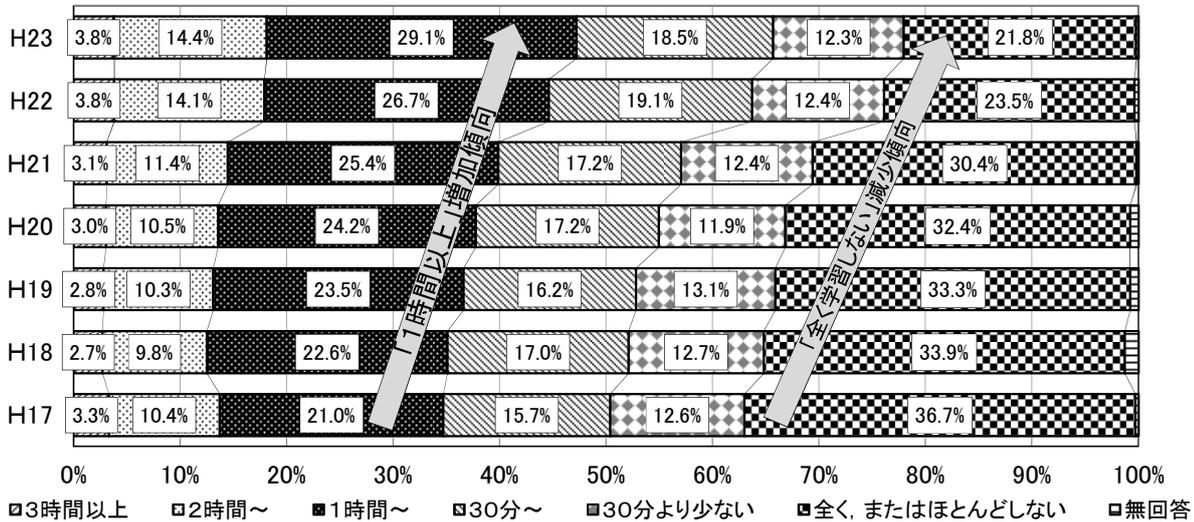
学習時間は全体的に増加傾向、「全く学習しない」はここ近年大幅に減少

平日（テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日）に、家庭学習（塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。）をどの程度しているか。

	5時間以上	4時間～	3時間～	2時間～	1時間～	30分～	30分より少ない	全く、またはほとんどしない
<b>H23</b>	<b>0.1%</b>	<b>0.5%</b>	<b>3.1%</b>	<b>14.4%</b>	<b>29.1%</b>	<b>18.5%</b>	<b>12.3%</b>	<b>21.8%</b>
H22	0.2%	0.5%	3.1%	14.1%	26.7%	19.1%	12.4%	23.5%
H21	0.3%	0.5%	2.3%	11.4%	25.4%	17.2%	12.4%	30.4%
H20	0.3%	0.5%	2.3%	10.5%	24.2%	17.2%	11.9%	32.4%
H19	0.3%	0.4%	2.1%	10.3%	23.5%	16.2%	13.1%	33.3%
H18	0.2%	0.4%	2.1%	9.8%	22.6%	17.0%	12.7%	33.9%
H17	0.3%	0.5%	2.5%	10.4%	21.0%	15.7%	12.6%	36.7%

＜分析＞平日の学習時間は前年度よりも「1時間以上」が2.6ポイント増加、「全く、またはほとんどしない」は1.7ポイントの前年度に続く減少

図4 家庭学習時間の割合の推移



(5)「どんなときに家庭学習をするか」

「ほぼ毎日学習する」生徒の増加傾向は継続

	ほぼ毎日	主に平日	主に休日	考査前	宿題・課題 があるとき	宿題・課題 や考査前	塾・予備校が ある時や家庭 教師がくるとき	気が向いたとき	ほとんど しない	その他
<b>H23</b>	<b>20.8%</b>	<b>5.0%</b>	<b>9.5%</b>	<b>11.7%</b>	<b>8.3%</b>	<b>24.4%</b>	<b>1.1%</b>	<b>11.7%</b>	<b>6.5%</b>	<b>0.7%</b>
H22	20.5%	5.7%	8.4%	11.7%	7.9%	22.9%	1.3%	12.9%	7.6%	0.8%
H21	15.7%	5.1%	7.0%	15.5%	5.9%	25.8%	1.5%	13.3%	8.7%	1.5%
H20	15.8%	4.4%	6.6%	15.3%	5.5%	24.8%	1.5%	13.7%	10.4%	1.2%
H19	14.1%	4.5%	6.8%	7.2%	4.4%	36.0%	1.5%	13.3%	10.5%	1.0%
H18	13.0%	4.5%	6.0%	7.6%	5.1%	36.1%	1.6%	13.3%	10.8%	1.1%
H17	12.8%	4.3%	6.6%	8.1%	4.4%	34.8%	1.8%	13.7%	12.0%	1.0%

<分析>前年度より「ほぼ毎日」学習しているのは0.3ポイント増加。「ほとんどしない」は1.1ポイント減少

(6)「学校での宿題・課題, 小テストの割合」

「週に2~3回」宿題・課題, 小テストの実施が増加

<学校からの宿題・課題の割合>

<学校での小テストの割合>

	ほとんど毎日	週に2~3回	週に1回ぐらい	ほとんど出 ていない
<b>H23</b>	<b>22.9%</b>	<b>40.5%</b>	<b>30.4%</b>	<b>5.8%</b>
H22	23.1%	36.9%	32.1%	7.7%
H21	17.4%	34.4%	33.9%	14.1%
H20	15.4%	33.5%	36.7%	13.6%
H19	14.9%	36.2%	31.1%	16.5%

	ほとんど毎日	週に2~3回	週に1回 ぐらい	ほとんどない
<b>H23</b>	<b>10.1%</b>	<b>36.4%</b>	<b>35.3%</b>	<b>18.0%</b>
H22	13.3%	35.9%	33.9%	16.7%
H21	11.9%	31.2%	31.5%	25.1%
H20	11.1%	31.1%	32.6%	24.3%

※H20に新設した質問

<分析>前年度より宿題・課題が「週に2~3回」出ている割合が3.6ポイント増加。小テストの実施は減少

(7)「家庭学習をする上で悩んでいること」

「部活動との両立」が増加, 「方法が分からない」は減少

	方法が分 からない	集中でき ない	計画が長 続かない	部活動と の両立	成績が 伸びない	その他	特になし
<b>H23</b>	<b>14.0%</b>	<b>26.6%</b>	<b>15.2%</b>	<b>21.4%</b>	<b>6.4%</b>	<b>2.8%</b>	<b>13.4%</b>
H22	14.5%	26.7%	15.2%	20.7%	6.3%	3.2%	13.2%
H21	14.8%	27.3%	15.1%	18.5%	6.7%	3.4%	14.1%
H20	14.4%	26.4%	14.5%	18.6%	6.6%	3.7%	14.8%
H19	13.7%	25.2%	14.5%	21.2%	5.9%	3.5%	15.0%
H18	14.2%	25.3%	14.2%	21.1%	5.6%	3.6%	14.1%
H17	15.3%	26.0%	13.9%	20.9%	5.2%	3.5%	14.2%

<分析>学習上の悩みは「集中できない」が最も多く, 前年度より「部活動との両立」が0.7ポイント増加

(8)「平日に家庭で最も時間をかけて行っていること」

「家庭学習」, 「ゲーム・インターネット」が増加

	家庭学習	テレビや ビデオ	ゲームや インターネット	電話や メール	読書	自分の 趣味	家族と の対話	手洗い	その他
<b>H23</b>	<b>10.8%</b>	<b>19.6%</b>	<b>15.8%</b>	<b>17.8%</b>	<b>3.6%</b>	<b>14.9%</b>	<b>5.1%</b>	<b>1.4%</b>	<b>10.8%</b>
H22	9.8%	19.7%	12.4%	20.5%	3.9%	16.3%	4.5%	1.3%	11.4%
H21	6.4%	25.1%	14.0%	18.3%	3.6%	16.1%	4.3%	1.3%	10.7%
H20	6.3%	24.3%	12.1%	19.7%	3.5%	16.4%	3.9%	1.4%	11.1%
H19	5.5%	23.9%	10.7%	22.0%	3.9%	16.5%	3.7%	1.2%	10.7%
H18	5.5%	23.4%	4.3%	20.3%	3.8%	23.2%	3.7%	1.3%	11.8%
H17	5.6%	28.8%	4.5%	16.9%	3.8%	22.3%	3.5%	1.3%	11.4%

\*「ゲームやインターネット」の項目は, H22までは「ゲームやパソコン」, H18までは「ゲーム」のみでの調査結果である。

<分析>家庭学習は前年度より1.0ポイント増加。選択項目の変更から, 前年度まで「電話やメール」に含まれていたと思われる携帯電話によるインターネット使用の割合分「ゲームやインターネット」が増加

(9)「学校に行く前に朝食をとるか」

朝食をとる生徒は増加傾向

	必ずとる	たいていとる	とらないこと が多い	全くとらない
<b>H23</b>	<b>77.3%</b>	<b>13.8%</b>	<b>5.1%</b>	<b>3.6%</b>
H22	77.4%	13.4%	5.4%	3.7%
H21	77.2%	13.0%	5.1%	4.4%
H20	74.0%	14.5%	5.9%	4.9%
H19	71.6%	15.4%	6.2%	5.0%

<分析>朝食を「必ずとる」または「たいていとる」生徒は, 前年度より0.3ポイント増加

## 4 2学年意識調査の結果と分析

※1年次との比較, 過去5年間の推移

### (1)「現在最も強く希望している進路は」

進路希望が1年次より一層明確化、「大学進学希望者」は前年度より減少

	大学	短期大学	専門学校	就職	その他	未定
H23(2年)	48.8%	3.2%	15.6%	24.3%	1.5%	6.5%
1年次	46.6%	3.6%	16.1%	19.5%	1.6%	12.6%
H22(2年)	50.3%	2.8%	15.8%	23.1%	1.4%	6.2%
H21(2年)	48.2%	3.2%	15.7%	24.1%	1.4%	7.2%
H20(2年)	47.9%	3.0%	14.9%	24.3%	1.5%	6.7%
H19(2年)	45.9%	3.3%	15.7%	25.4%	1.2%	7.7%

<分析> 1年次より未定者が半減。過去5年間では増加傾向にあった「大学進学希望者」が、前年度2年生より1.5ポイント減少。「就職希望者」は1.2ポイント増加

図5 進路希望別の割合の推移(上図:1年次との比較, 下図:過去5年の推移)

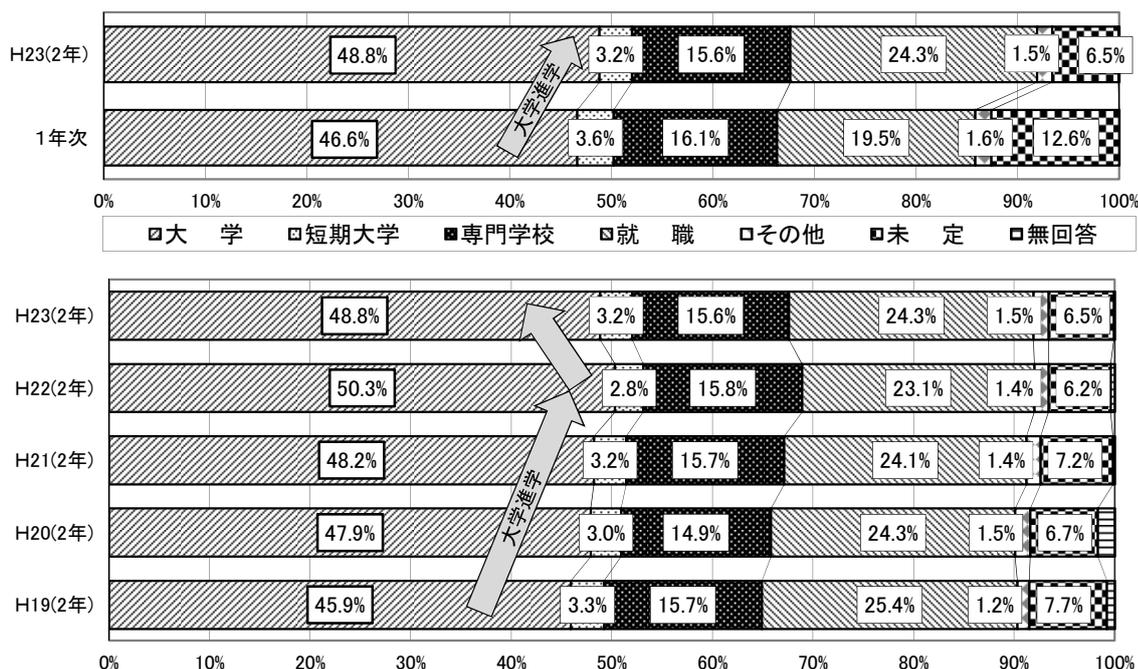
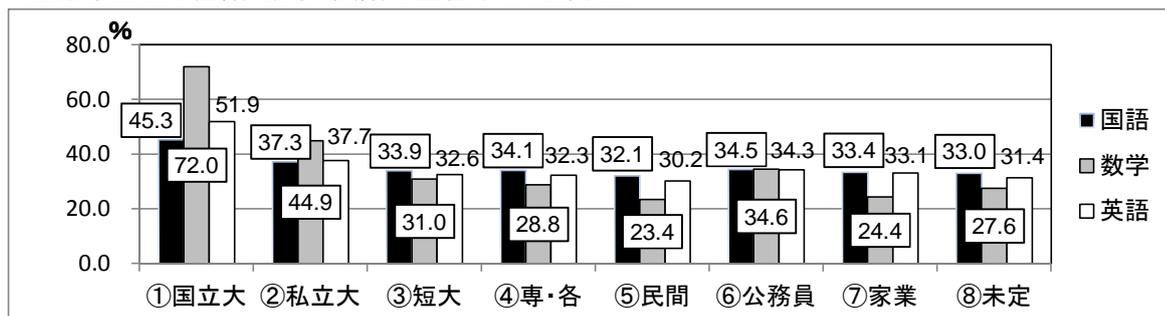


図6 進路希望別の国語・数学・英語の正答率(共通問題)



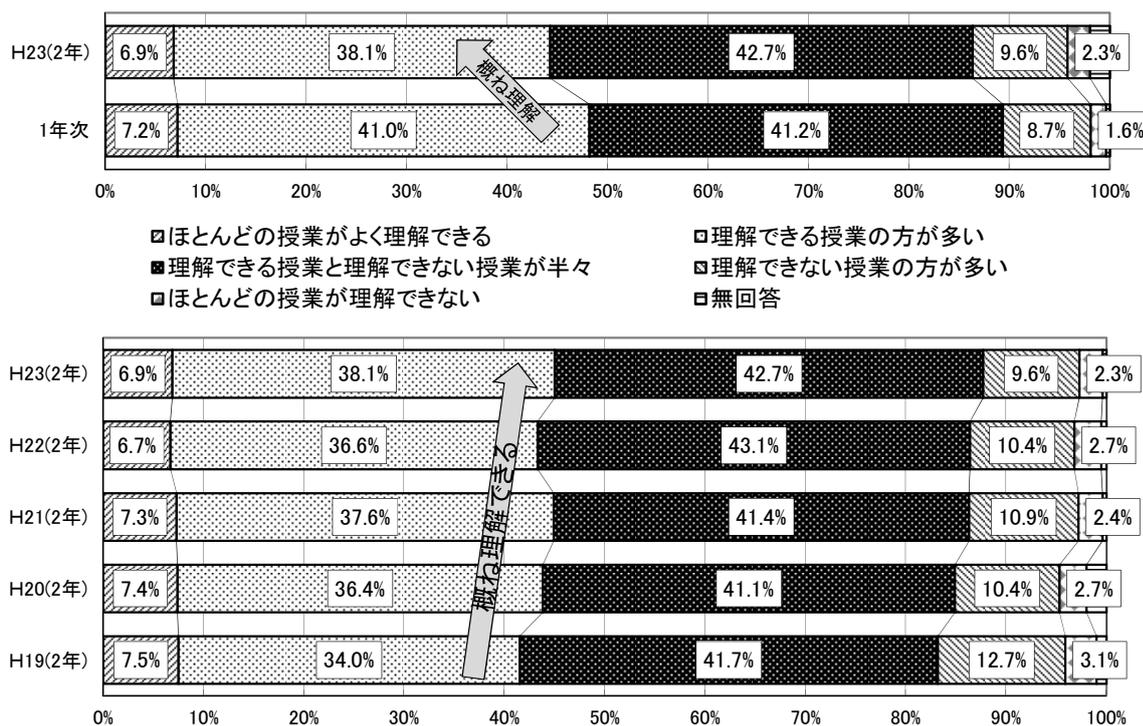
### (2)「授業がどのくらい理解できるか」

「授業が理解できる」が1年次よりも減少

	ほとんどの授業がよく理解できる	理解できる授業の方が多い	理解できる授業と理解できない授業が半々	理解できない授業の方が多い	ほとんどの授業が理解できない
H23(2年)	6.9%	38.1%	42.7%	9.6%	2.3%
1年次	7.2%	41.0%	41.2%	8.7%	1.6%
H22(2年)	6.7%	36.6%	43.1%	10.4%	2.7%
H21(2年)	7.3%	37.6%	41.4%	10.9%	2.4%
H20(2年)	7.4%	36.4%	41.1%	10.4%	2.7%
H19(2年)	7.5%	34.0%	41.7%	12.7%	3.1%

<分析> 「授業が概ね理解できる」と回答した生徒が1年次より3.2ポイント減少。過去5年間では最高の45.0%となった。

図7 授業理解度の割合の推移(上図:1年次との比較, 下図:過去5年の推移)



### (3)「平日の学習時間」

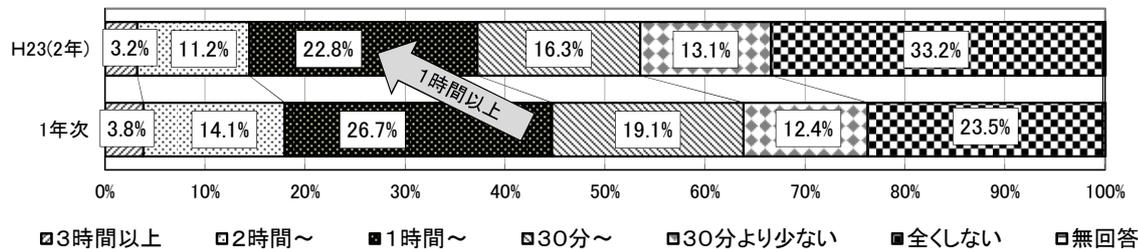
**2～3時間集中した学習が効果的**

平日（テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日）に、家庭学習（塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。）をどの程度しているか。

	5時間以上	4時間～	3時間～	2時間～	1時間～	30分～	30分より少ない	全く、またはほとんどしない
<b>H23(2年)</b>	<b>0.3%</b>	<b>0.5%</b>	<b>2.4%</b>	<b>11.2%</b>	<b>22.8%</b>	<b>16.3%</b>	<b>13.1%</b>	<b>33.2%</b>
1年次	0.2%	0.5%	3.1%	14.1%	26.7%	19.1%	12.4%	23.5%
H22(2年)	0.3%	0.3%	2.0%	10.4%	23.3%	16.7%	12.3%	34.4%
H21(2年)	0.3%	0.5%	2.4%	10.3%	21.5%	15.0%	12.3%	37.6%
H20(2年)	0.4%	0.4%	2.3%	10.3%	21.5%	14.3%	12.3%	37.8%
H19(2年)	0.4%	0.5%	2.1%	8.9%	19.9%	15.3%	12.2%	39.9%

<分析> 「全く、またはほとんどしない」は1年次より9.7ポイント増加, 前年度2年生よりは1.2ポイント減少。「2時間以上」は1.4ポイント増加

図8 家庭学習時間の割合の推移(上図:1年次との比較, 下図:過去5年の推移)



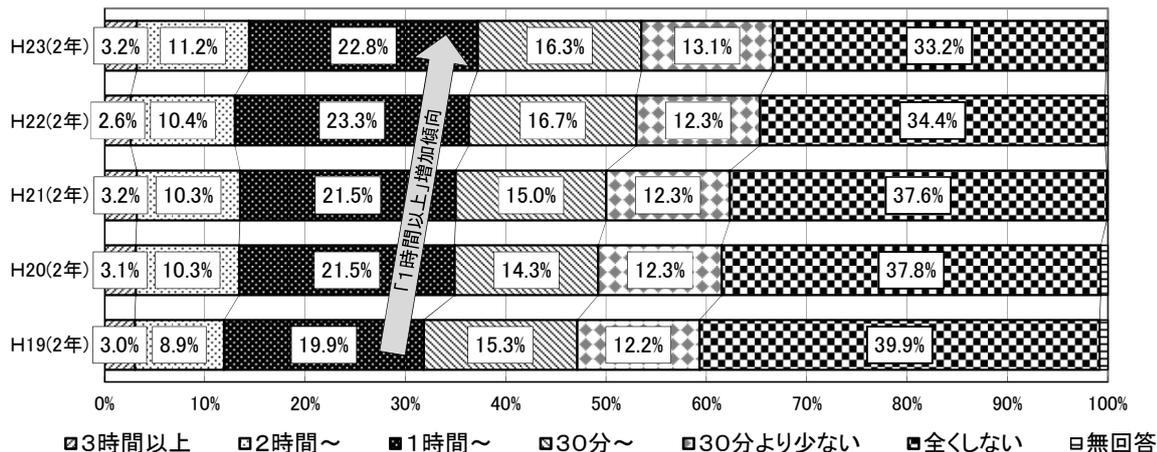
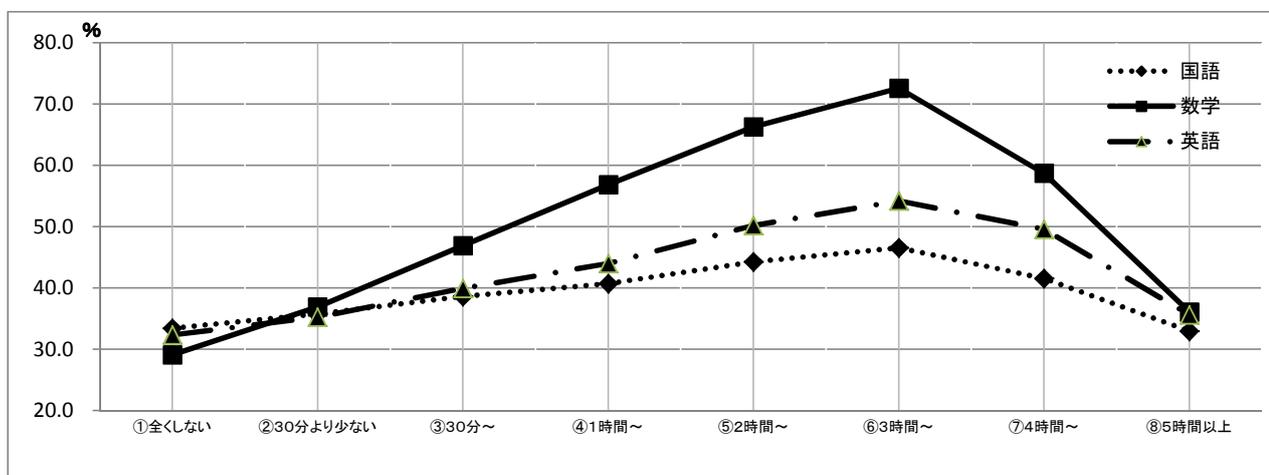


図9 家庭学習時間と共通問題の正答率との関係



(4)「どんなときに家庭学習をするか」

「ほぼ毎日学習する」生徒が1年次と比べ減少傾向

	ほぼ毎日	主に平日	主に休日	考査前	宿題・課題があるとき	宿題・課題や考査前	塾・予備校がある時や家庭教師がくるとき	気が向いたとき	ほとんどしない	その他
<b>H23(2年)</b>	<b>17.3%</b>	<b>4.4%</b>	<b>6.5%</b>	<b>18.3%</b>	<b>6.1%</b>	<b>23.2%</b>	<b>1.2%</b>	<b>11.0%</b>	<b>10.8%</b>	<b>1.0%</b>
1年次	20.5%	5.7%	8.4%	11.7%	7.9%	22.9%	1.3%	12.9%	7.6%	0.8%
H22(2年)	15.4%	4.7%	6.6%	18.4%	5.7%	23.5%	1.3%	12.0%	11.1%	1.1%
H21(2年)	15.0%	4.4%	5.6%	19.2%	4.8%	24.9%	1.3%	11.4%	12.1%	1.4%
H20(2年)	15.2%	4.5%	5.4%	19.9%	4.3%	23.9%	1.6%	11.4%	11.8%	1.2%
H19(2年)	12.7%	4.0%	5.3%	11.0%	3.4%	35.8%	1.6%	11.3%	13.0%	1.2%

<分析> 「ほぼ毎日」学習しているのは1年次より3.2ポイント減少、前年度2年生より1.9ポイント増加

(5)「学校での宿題・課題、小テストの割合」

宿題・課題、小テストが基礎・基本の定着に効果大

<学校からの宿題・課題の割合>

<学校での小テストの割合>

	ほとんど毎日	週に2~3回	週に1回ぐらい	ほとんど出でない
<b>H23(2年)</b>	<b>18.6%</b>	<b>32.9%</b>	<b>35.3%</b>	<b>12.9%</b>
1年次	23.1%	36.9%	32.1%	7.7%
H22(2年)	16.1%	33.1%	37.9%	12.6%
H21(2年)	11.9%	28.3%	39.1%	20.4%
H20(2年)	11.1%	28.8%	40.1%	19.3%
H19(2年)	13.4%	29.1%	36.9%	19.5%

	ほとんど毎日	週に2~3回	週に1回ぐらい	ほとんどない
<b>H23(2年)</b>	<b>14.1%</b>	<b>37.7%</b>	<b>29.6%</b>	<b>18.4%</b>
1年次	13.3%	35.9%	33.9%	16.7%
H22(2年)	12.1%	36.6%	30.6%	20.2%
H21(2年)	11.9%	31.2%	31.5%	25.1%
H20(2年)	9.4%	35.2%	28.1%	26.6%

※H20に新設した質問

<分析> 「ほとんど毎日」または「週に2~3回」宿題・課題が出されるのは、1年次より2.6ポイント減少  
「ほとんど毎日」または「週に2~3回」小テストがあるのは、1年次より2.6ポイント増加

図10 宿題・課題の割合と共通問題の正答率との関係

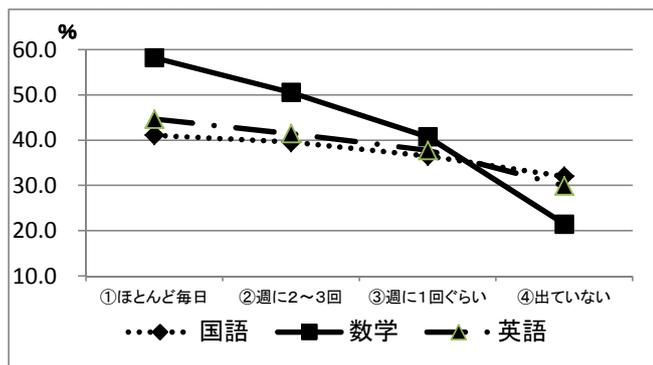
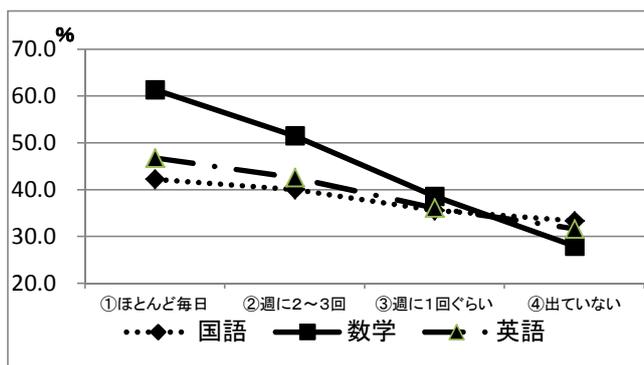


図11 小テストの割合と共通問題の正答率との関係



(6)「家庭学習をする上で悩んでいること」

1年次に比べ「集中できない」が増加、「部活動との両立」「方法が分からない」は減少

	方法が分からない	集中できない	計画が長続きしない	部活動との両立	成績が伸びない	その他	特になし
H23(2年)	13.4%	28.5%	14.7%	16.4%	7.3%	3.8%	15.8%
1年次	14.5%	26.7%	15.2%	20.7%	6.3%	3.2%	13.2%
H22(2年)	14.6%	29.7%	15.1%	15.6%	6.4%	3.5%	14.8%
H21(2年)	13.4%	29.5%	15.7%	14.8%	6.9%	3.7%	15.9%
H20(2年)	12.7%	28.6%	15.5%	16.1%	6.3%	4.5%	15.5%
H19(2年)	13.2%	26.7%	15.5%	17.5%	6.2%	4.1%	15.6%

<分析> 1年次より「集中できない」が1.8ポイント増加。「部活動との両立」は4.3ポイント減少

(7)「平日に家庭で最も時間をかけて行っていること」

「家庭学習」は前年度2年生より増加、1年次より減少

	家庭学習	テレビやビデオ	ゲームやインターネット	電話やメール	読書	自分の趣味	家族との対話	手伝い	その他
H23(2年)	8.4%	21.8%	18.1%	15.9%	3.9%	15.0%	4.1%	1.2%	11.3%
1年次	9.8%	19.7%	12.4%	20.5%	3.9%	16.3%	4.5%	1.3%	11.4%
H22(2年)	6.6%	23.2%	14.4%	17.8%	3.1%	17.2%	4.3%	1.3%	11.6%
H21(2年)	6.1%	26.3%	15.0%	16.0%	3.2%	16.6%	3.9%	1.5%	11.1%
H20(2年)	5.7%	25.3%	12.2%	18.1%	3.8%	16.7%	3.7%	1.3%	12.1%
H19(2年)	5.2%	26.3%	10.5%	19.1%	3.8%	16.5%	3.4%	1.1%	12.2%

\*「ゲームやインターネット」の項目は、H22までは「ゲームやパソコン」での調査結果である。

<分析> 家庭学習は前年度2年生より1.8ポイント増加。選択項目の変更から前年度まで「電話やメール」に含まれていたと思われる携帯電話によるインターネット使用の割合分「ゲームやインターネット」が増加

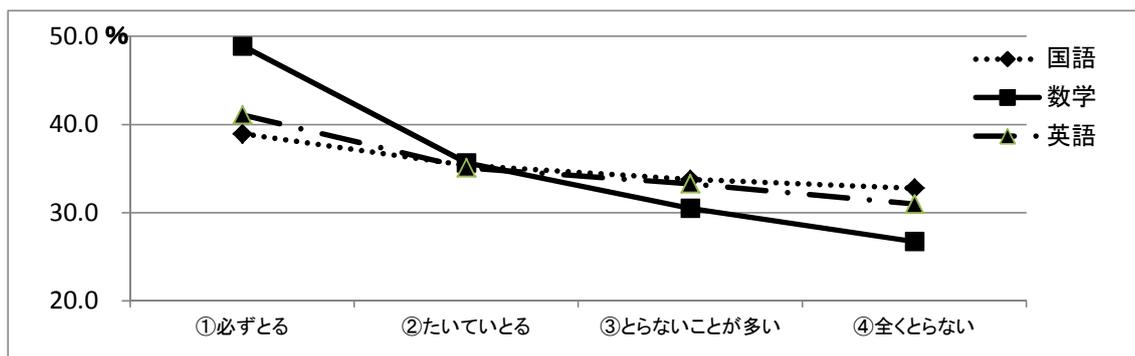
(8)「学校に行く前に朝食をとるか」

朝食をとる生徒はすべての教科において高い正答率

	必ずとる	たいていとる	とらないことが多い	全くとらない
H23(2年)	74.1%	14.8%	6.1%	4.8%
1年次	77.4%	13.4%	5.4%	3.7%
H22(2年)	74.3%	14.4%	5.5%	5.4%
H21(2年)	73.5%	14.3%	6.1%	5.9%
H20(2年)	71.9%	14.3%	6.8%	6.1%
H19(2年)	69.0%	15.8%	7.6%	6.0%

<分析> 朝食を「必ずとる」または「たいていとる」は前年度2年生より増加、1年次より減少

図12 朝食習慣と共通問題の正答率



# 学力向上に向けた今後の取組

## 【各学校】

各学校では、新しい高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、必要に応じて義務教育段階及び高校1年生の学習内容の確実な定着を図る指導を2年次にも適宜取り入れるなどの工夫をした上で、授業の質の向上と家庭学習の充実に向けた取組を行い、「確かな学力」の育成を目指す。

### 授業改善の推進

各学校における組織的な授業改善への取組によって、調査開始以来7年連続して、「授業が理解できる」と回答した1学年生徒の割合が増加してきている。ただし、「授業が理解できる」と回答した2学年生徒の割合は1学年次より減少傾向にあり、「理解できる授業と理解できない授業が半々」、「理解できない授業の方が多い」、「ほとんどの授業が理解できない」と回答した生徒は1・2学年とも約50%おり、言語活動を取り入れながら「分かる授業」「考えさせる授業」に向けた一層の授業改善が今後も望まれる。

### 家庭学習の記録簿や宿題・小テストを利用した学習時間の確保

「ほぼ毎日勉強する」と答える生徒も1・2学年とも増加傾向が継続しているが、休日も含めた家庭学習の計画を立てることの指導や、適度な量と質の宿題を課すこと・授業においてより一層小テストを実施することなどを指導計画に取り入れる工夫によって、家庭学習の習慣付けが一層促進することが今後も望まれる。

### 学校と家庭の連携

家庭学習上の悩みとして「家庭学習に集中できない」と答える生徒の割合が多いことから、家庭学習を推進する上で、より一層学校と家庭の連携が必要である。



## 【教育委員会】

宮城県教育委員会では、新高等学校学習指導要領の趣旨の周知に努めるとともに、高校生の学力向上に向けて各種事業に取り組み、各高校を支援する。

